

首都圏の自然環境の基本目標

生物多様性保全の場提供機能

首都圏の歴史に根付いた、首都圏にふさわしい生物相を首都圏全体で豊かにする。里地里山、里海里浜のエコトーン等、地域に応じて生物が多様な自然環境とする。新たに絶滅の危機に瀕する生物種が増加しないような自然環境とする。

人と自然とのふれあいの場提供機能

歴史的、文化的な価値を有する自然環境とのふれあいを将来にわたって楽しみ、あるいはそのふれあいから学ぶことができるようにする。都市生活者にとってもそれほど遠くない距離に、鳥や蝉、秋の虫の音に四季を感じる、季節の草花を愛でる、蝶やとんぼが舞うのを楽しむ等、自然とふれあって四季を十分に楽しめるようにする。広々とした緑地や、せせらぎ・さざ波等に触れられる水辺空間、土に親しみ収穫を喜べる空間等、さまざまなふれあいを楽しめるようにするとともに、ふれあいの場が多くの人々にとって使いやすいものとなるようにする。

良好な景観提供機能

人々の心に残るふるさとの原風景や、古くから親しまれている史跡・名勝と一体となった美しい景観を継承し、より良いものにするとともに、地域の個性につながる自然環境を整備する。人々が広がりや開放感を感じることや、身近に四季を目で見て感じるようにする。連担性、連続性のある自然環境により、雄大で奥行きのある良好な景観を楽しむことができるようにする。

都市環境負荷調節機能

流域圏全体に着目し、自然の水循環と人工の水循環がバランスよく組み合わせられた都市環境とする。高度に都市化された市街地の中にあっても、水が適切に循環する環境とする。【水環境保全機能】

ヒートアイランド現象等で引き起こされる熱環境の悪化や大気乾燥化、さらには局地的な大雨等、局地的な気象変動を都市の熱バランスを確保することによって低減させ、快適な環境とする。【局気象調節機能】

都市活動の結果生み出される生活に不快となる騒音が緩和された静寂な環境とする。【騒音緩和機能】

首都圏にあっても温暖化防止に資するため、CO₂の吸収源となる森林や緑地等が整備された環境とする。【温暖化防止機能】

自然環境が持つ循環システムを有効に活用し、有機性廃棄物による環境負荷を軽減する。【有機性廃棄物分解機能】

防災機能

災害時の避難場所や避難ルートが必要な地域において、適切な自然環境の配置と活用によって避難場所や避難ルートの確保を図るとともに、延焼遮断帯として機能する自然環境の確保を図る。